

「2015年インドネシア大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学農学研究科1年 鶴田惇

私は環境問題に関心があり、インドネシアについては大規模プランテーションによる熱帯林の破壊が問題であるということをよく授業で聞いていました。また、イスラム国を始めとするイスラム教関連のニュースが増える中で、イスラム教について知りたいと思うようになりました。今回のプログラムでは、インドネシア大学の学生との交流を通して、インドネシアの人たちがインドネシアの環境問題についてどう考えているのかということと、イスラム教について色々知ることを目標としました。

インドネシアに滞在中は、午前中にインドネシア語の授業、午後は日本語学科の授業を受けていました。インドネシア語の授業では、先生方が明るく楽しく授業をしてくださるので、毎日の授業がとても楽しみでした。授業で習った会話を食堂やゲストハウスにいる地元の方とすぐに実践でき、語学学習の大きな励みになりました。週末はインドネシア大学の先生にインドネシアの文化・歴史を勉強するフィールドワークに連れて行っていただきました。インドネシアの地域ごとの文化や植民地時代の様子などを博物館にある展示物や、今もあるその時代の建築物を見ながら解説していただきました。また、授業最終日に行われるプレゼンテーションのため、インドネシア大学の学生と時間を見つけて準備を進めました。私たちのチームのカテゴリーは環境で、初めは日本の原発やインドネシアのプランテーションなどをテーマにしようと考えていたのですが、身近な話の方がよいということになり、テーマはごみ問題となりました。インドネシア大学のメンバーの一人が日本を訪れた際に大型リサイクルショップの存在に驚いた経験があったため、インドネシアと日本のリユース事情を分析し、インドネシアにも大型リサイクルショップが進出できるのかという視点からごみ問題を発表しました。インドネシアの暮らしでは、生活のいたるところでイスラム文化を感じられました。ちょっとしたお店の中にもお祈りのための場所があり、インドネシア大学の学生の多くも時間になるとお祈りに行きます。大学内にも大きなモスクがありますし、豚肉やお酒を目にする機会はほとんどありません。ただ、一方、イスラム教といっても色々宗派があり、それぞれ考え方が違うということを知りました。また、確かにイスラム教が多数ですが、インドネシアは多宗教の国です。日本語学科の授業の中に社会学の授業があったのですが、その授業で先生は「マジョリティーが一番鈍感だ」とおっしゃっていました。多宗教・多文化の国ということは、少数派を尊重しなければならないのですが、多数派は鈍感なので少数派の思いはなかなか反映されない、という意味です。この言葉は環境問題にも当てはまる、常に意識していないといけない大切な言葉だと思います。

今回のプログラムで、インドネシア大学の先生、学生にはとてもよく面倒をみていただき、色々なテーマの話しながら交流できました。環境問題に関しては、貧困や失業率などの他の社会問題に隠れてしまっているような感じがしました。環境問題も長期的にみたらインドネシアの人々にとっても大きなインパクトをもっていると考えられるのですが、学生の環境問題への意識はそれほど高くなさそうでした。環境問題解決のためにはアプローチ方法が重要だといえそうです。今回は、インドネシアのプランテーションの現場へ行き、実際にどれほどのことが行われているのかを知りたいと思います。イスラム教に関しては、日本ではあまり見かけない日常的なムスリムの方々の生活を見ることができました。仲良くなったインドネシアの学生とはこれからも連絡を取り合い、また、日本に留学しているインドネシアの留学生とも交流を深め、イスラム教についての知識を深めるとともに、ムスリムの方々ともより深い交流をしていけたらと思います。